



みなさん「桟俵」と聞いて何だかわかりましたでしょうか？ 桟俵は「米俵」の両端に付ける蓋のことです。「流し雛」の台座としても使われてきました。「流し雛」は人形を水に流することで病気や災いも流し子どもたちの健康や健やかな成長を願う日本古来の伝統行事です。みなさんが「桟俵」を作れるようになって子どもたちに見せたり親しんでいくことで、「流し雛」の伝統をつなげていただける機会になればと思い今回チャレンジしました。

【材料】

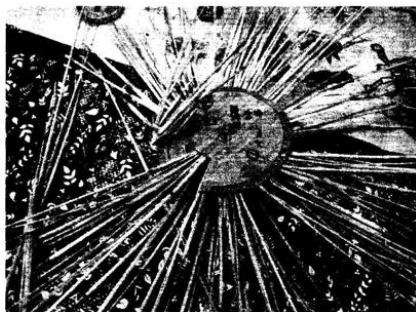
藁 (44本)、麻紐 (40センチくらい1本)、段ボール台紙 (直径15センチの円形から6分の1を切り取った形。これが型紙になります)、ボルトとナット、段ボールを補強する養生テープ、ハサミ、霧吹き

※写真参照



【作り方】

- ① 藂の根元と穂先をカットして48センチの長さにする。中心をとっくり結びで結ぶ（わからない場合は固結びできつく）。
- ② 藂を立てて放射線状に開く。
- ③ 放射線状に開いた藁の上に台紙をのせ、中心の穴にボルトとナットを入れ藁と台紙と一緒にとめる。
- ④ 2本1組にして藁を持ち、隣の藁の後ろを回すようにして中心へ中心へと藁を倒して編んでいく。編み方は『つくって楽しむわら工芸』に詳しく載っていますので参考にしてください。※写真参照



- ⑤ 半周以上編んだところで台紙（型紙）をずらし、これから編むところにもきちんと台紙が当たるようにする。
- ⑥ 最後の1目になったらボルトとナットを外し中から台紙を抜く。このとき形を崩さないように気を付ける。
- ⑦ 残りの一目を最初の目の中に通す。編み終わったら、出ている藁などを内側に押し込む。※写真参照



- ⑧ 丸い形を整えて出来上がり！

作り方の中でボルトとナットを使っていますが、これは棟俵の中心がきちんと真ん中に来るようを作るために工夫したものです。昔は中心に釘を使い畳などに差し、中心が動かないようにして作っていたそうです。

今回は中に入れるお人形は作りませんでしたが、いろんな形があるようですので調べていただくと楽しいかも知れません。アレンジして写真フレームにしたりお部屋の飾りにされたりもするようです。チガヤなどの植物で作ることもできます。

みなさんの仕上がりが早かったので伊勢地方に伝わる「とんぼ」というしめかざりも作ってみました。多くは水回りに使われているとされていますが、縄一本で作れるので簡単で楽しいです。※写真参照



■最後に

なかなか入手が難しい藁ですが、取り扱っているホームセンターや道の駅もあるそうです。近所の田んぼ、あるいは知り合いから分けてもらえるなどがあれば良いですが、最近ではネットでも出でていて入手の経路は変わったのかも知れませんね。ともあれ無心で藁に向かう時間は至福の時になりそうです。

【参考文献】

- ・『つくって楽しむわら工芸』瀧本広子 編／農山漁村文化協会
- ・「ひなにんぎょうができるまで」サンチャイルドピックサイエンス／2017年3月号